



わが家は「草野家住宅」として大分県の有形文化財指定を受けている。うたい文句は元禄元年建築という「県内最古の商家」である。おそらくは九州でも最古だろうとのことだが、通常あるはずの棟書き

(棟木に建築年月などを墨書したもの)がどうしても見つからない。やむを得ず瓦や手元にある古文書などから推定している

調査文化財の真夏



草野 義輔

のだが、昨年からの修理に伴い建築年代の特定や増築等の経緯を調査することになった。

委員会が設置され、建築関係は名古屋工科大学院教授の滝先生が担当してくれることになった。

日田の暑さは全国的に有名であるが、そのピークともいえる

八月に磯先生以下研究室の学生九人が調査にやってきた。「県内最古の商家」には当然ながら冷房などの気の利いたものはない。二十代前半の若い学生たちが柱の位置や太さなどを細部まで計測して床をはい回ったりと、流れる汗をタオルでふきながら、懸命に作業に取り組んでくれた姿は感動的でさえあった。

学生たちと夕食を共にする機会があったが、建築を専攻し、文化財にも関心を持っているとのことと、服装や髪形なども清潔で、話しぶりからも素朴でひたむきな印象で好感が持てた。

最近の若者は、などと批判も耳にすることはあるが、彼らを見てみると日本もまだまだ捨てたものではない、とちよっと安心してうれしくなった。(昭和学園高校理事長・日田市)